

栄光に輝くからだ

箴言 27 章 17 節。

「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」

今日は洗礼式です。洗礼式の礼拝でのメッセージということで、祈りつつ、私自身の信仰生活を振り返りつつ、備えて、喜びの日を迎えました。

私自身は、18年前、2006年に横須賀の教会で洗礼を受けました。それまで教会と無縁の生活をしていた私は、スポーツジムでクリスチャンの青年と出会って、教会に導かれ、洗礼へと導かれました。

私を歓迎してくれた青年たちは、続けて教会に誘い続けてくださり、聖書のことを教えてくれたり、教会のことを教えてくれたり、そしていつも祈ってくれていました。でも、筋トレバカで、日サロに行ったり、バイクで海に遊びに行っているような男が、本当に救われるんだろうとか半信半疑であったのではないかと思います、不思議なことに、受洗することができました。

スポーツジムに通いながら、「筋トレこそが自分を変えるんだ」と思っていた私が、人との出会いを通して、教会との出会いを通して、そして、イエス様との出会いを通して、「出会いによって自分はこんなに変わるんだ」という、驚く体験をいたしました。人は鉄によって研がれるのではない、人は筋トレによって変わるのではなく、人は友によって研がれる、人との出会いによって変わっていくのだと実感しました。

箴言 27 章 17 節のみことばの通りです。「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」人が研がれていく。皆さんはどのような、姿を想像するでしょうか。人が研がれていく、磨かれていく。洗礼を受ける前の私であれば、輝く肉体、芸術的な、見た目美しいマッチョな姿を想像していたことでしょう。自分の力を誇るような、自分の能力を誇るような、自分の強さを見せつけるような姿を思い浮かべていたと思います。

しかし、そうではないということを青年会や教会の先輩クリスチャンの姿を通して教えられました。それは自分の力を誇ることと正反対の、へりくだり、謙遜に、愛を持って私に接して下さる姿でした。自分の目指していた生き方とは全く正反対の生き方があるということを教えられた私は衝撃を受けました。そして、そのような青年達の生き方に魅力を感じたのです。

その生き方は、聖書で教えられている生き方でした。この世の価値観が当たり前で、この世の価値観しか知らなかった私は、聖書の教えにも驚き、「聖書ってすごいんだ」と感動したことを覚えています。

I コリント 13 章 4 節。

「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。」

筋トレバカで、筋肉しか知らなかった私は、愛を教えられました。しかも、その愛は、筋肉、力とは正反対であったのです。

「筋肉は自慢であり、高慢です、また人をよくねたみます」という生き方をしていた私は、教会の中で、人によって、みことばによって、新しい生き方を教えられました。「筋肉は自慢であり、高慢です、また人をよくねたみます」という生き方ではなくて、I コリント 13 章 4 節のみことばの通り、「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。」という愛によって生きたいと思わされたのです。

箴言 27 章 17 節。

「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」

まさに私は、「人は鉄によって研がれるのではなくて、人はその友によって研がれる。人はその友によって変えられる」ということを経験いたしました。そしてその友は、主なる神様が与えてくださった友でした。神様は本当にすごいことをするお方だなあと思います。

人はその友によって研がれます。その友を与えてくださるのは主なる神様です。もし私はスポーツジム以外で、クリスチャンに出会っていたとしても、あいさつぐらいはしたかもしれませんが、友にはなっていなかったと思います。スポーツジムで出会ったからこそ、筋トレ好きには悪い人はいないと思って、そのクリスチャンのことを信頼して、友になることができました。神様が与えてくださった友です。

私はその友を通して、イエス様に出会いました。イエス様がスポーツジムに来てくださったんだと思っています。イエス様が私のいるところに来てくださった、イエス様がわざわざ私に会いに来てくださったのです。

聖書を見てみても、イエス様が色々な所に歩き回って、色々な人に近づき、出会う出来事が書かれていますが、イエス様はスポーツジムにも来てくださるお方なのです。ですから今でもイエス様は、色々な所に行って、どんなところでもイエス様が人に近づいてくださり、出会うということが起こりうるんだと思います。

私は人と出会い、イエス様と出会い、そして変わりました。

「人はその友によって研がれる。」

出会いを通して、それからの人間関係、イエス様との関係によって変えられ続けてきました。人は鉄によって研がれるのではなくて、人はその友によって研がれていく、磨かれていく、本当に輝いていく、成長していく。

見せかけの筋肉の輝きではない、人と人との関係の中で、愛によって輝いていく、愛によって人が造られていく、造り変えられていくということをこれまで経験してきました。

確かに、人は友人との会話、一緒に過ごす時間を通して、互いに影響を与え合います。そして、その人を作り上げていきます。友と似たような人間になっていきます。ですから、主なる神様が与えてくださる本当の信仰の友との出会い、そして何よりもイエス様との出会いが大切です。

私は信仰の友と出会い、青年会で共に過ごし、教会で交わり、共にみことばを分かち合うことによって、研がれ、磨かれ、造り変えられ、成長させられてきました。

横須賀での青年時代、当時の青年会長の住まいに呼ばれたことがありました。青年会長はアパートで独り暮らしをしていました。クリスチャンの友の家に行くというのに慣れていなかったのもとても新鮮でした。ご飯を用意してくださって、もちろん食事の前にはお祈りをして、食事をしながらも、信仰の話をしたりして、仕事の話とか、将来の話とか、奉仕の話をし、その時は特別な感じがして、「何か、俺ってクリスチャンっぽいな」と思ったことを思い出します。

クリスチャンっぽい時間を過ごした後、青年会長が私を隣の部屋に案内してくれました。そうしたら、部屋の壁に付箋がいっぱい貼ってあるのが見えました。近づいてみると、付箋一枚一枚に、青年の名前と祈禱課題が書いてあったんですね。青年会長は青年一人一人のために祈っていたんですね。

「僕はクリスチャンっぽいだけで、青年会長は本物のクリスチャンだなー」と感動している私に、青年会長が「石田君も祈禱課題書いて、いつも祈ってあげるから」と付箋を渡してくれました。

それから、お互いに結婚のこととか、献身のことを祈り合いました。今も時々、青年会長の汚いアパートのことを思い出しています。あの青年会長との祈りから私の信仰生活が始まったのかなと思いつつ、神様は本当に祈りを聞いてくださるお方だと感謝しながら、スポーツジムに来てくださるイエス様は、汚いアパートにも一緒におられたのかなと、色々な思いが溢れ出てきます。

「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」

それから、私自身、研がれて研がれて、こうしてここに立たされています。

青年達によって、私自身が研がれてきたということもありますが、それだけでなく、筋肉バカの私のために祈り、共に教会生活をした、青年達も良い訓練となったのかどうかわかりませんが、当時の青年会の仲間が3人牧師になっているのです。

「人はその友によって研がれる。」、互いに研がれていくんだなと思わされています。皆が互いに、荒削りだった青年会時代を懐かしく思い出します。

私がこれまで過ごしてきた教会の交わりの中心は愛でした。そして愛によって私は育てられてきました。

I コリント 8 章 1 節のみことばにも「愛は人を育てます。」とあります。愛によって人は育てられるのです。愛があるからこそ、信仰の友として、互いに研がれて成長していくことができます。もし教会に愛が無かったならば、私は教会から追い出されていたと思います。

教会はこの世の価値観とは違うので、横須賀の青年会もそうでしたが、個性的と言えますか、変わった人が多いように思います。それでも一緒にいることができるのは、同じ信仰があり愛があるからこそです。

ヤマアラシの話があります。

冬の厳しい寒さが続いていたある日、一匹のヤマアラシがモグラの家族に冬の間だけ、一緒にほら穴の中にいさせて欲しいとお願いをしました。

モグラ達は、喜んでヤマアラシのお願いを聞き入れます。

けれども、そのほら穴は狭かったので、ヤマアラシがほら穴の中を動くと、モグラ達はヤマアラシの針に引っかかれてしまうのでした。

しばらくは我慢していましたが、ついにモグラ達は、ヤマアラシにほら穴から出て行って欲しいとお願いをしました。

ですが、ヤマアラシは、このお願いを断ります。そして言いました。「ここにいるのが嫌なら、君たちが出て行けばいいじゃないか」

このヤマアラシの話。いかがでしょうか。

ヤマアラシとモグラと一緒に住むことになったけれども、ヤマアラシの針が邪魔で、一緒に過ごすことが難しくなってしまうのです。

モグラがもっと我慢すれば良いのでしょうか。それとも、ヤマアラシがモグラに言われた通り、出て行けばいいのでしょうか。しかし、ヤマアラシにとっては居心地が良いようです。そうであるならば、ヤマアラシがモグラに言い返したように、ヤマアラシと一緒にいるのが嫌なモグラが出て行くべきなのでしょう。

どうしたら一番良いのか、何が正解なのか、迷ってしまうような問題ですね。

しかし、一つの解決策があります。

それは、「ヤマアラシに毛布をかける」ということです。寒い冬ですからヤマアラシも喜ぶことでしょう。そして、モグラもヤマアラシの針に引っかかれることは無くなります。ヤマアラシもモグラも喜んで一緒に過ごすことができます。

「ヤマアラシに毛布をかける」。私たちが教えられている愛にも通ずるところがあると思います。

I ペテロ 4章 8節

「何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。」

「毛布をかける」、それは、私たちが持っている互いの弱さ、罪をおおう愛です。愛によって、私たちの多くの罪がおおわれて、一緒に過ごすことができます。

喜んで過ごしていた、横須賀の青年会時代ですが、毎週毎週会っていると、嫌なこともありました、「なんか面倒くさいな」と思うようなことがあったり、人間関係が上手くいかなくて、そのうちにもう教会に行くの辞めようかなと思うことがありました。そんな時に、先輩の青年に相談すると、「だめだよ、教会に来なよ」と励まされるのです。

ある青年は、自分も教会に行くのをやめようと思って牧師先生に相談したことがあると話してくれました。教会学校の奉仕で、中高生と上手くいかなくて、奉仕をやめよう、教会を変えようかと相談したことがあると言うのです。

それでも、「やめちゃだめだ」と牧師に言われて、奉仕も続けて、教会に残って今ここにいるというのです。

色々な青年と話をしていく中で、気が付いたのは、自分は弱くて、罪深くて、人とも上手く付き合えないから、教会にいないほうが良いんじゃないかと思っていたのは私だけではないということでした。私と同じような経験やそれ以上の経験をして、でも教会にいるという青年達がいっぱいいたのです。

みんな毛布をかけられたヤマアラシだったんですね。「愛は多くの罪をおおうからです。」弱くて、罪深くとも、互いに祈り合いながら、互いに愛し合いながら、一緒に主を見上げて礼拝をして、教会に集っていたのです。

私も教会に続けて通いたいと思いました。私も愛の毛布をかけられて、そして愛の毛布をかける人にもなりたい、愛で人をおおう人になりたい。互いに愛でおおいあって、一緒に教会で過ごしたいと思うようになり、また主に守られて、教会を離れることはありませんでした。

私たちは皆、毛布をかけられたヤマアラシです。赦されて、愛されて、共に教会生活をする、信仰の友です。共に教会生活をし、共に信仰の道を歩み続ける友です。

何よりもイエス様が私たちを友と呼んでくださり（ヨハネ 15章 15節）、主の愛によって捕らえられています。

ローマ 8章 39節。

「高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」

私たちは互いに神の愛によって結びつき、共に歩み続けます。

ピリピ 3章 12-14 節

「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。

兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えるとはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、

キリスト・イエスにあつて神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。」

私たちは共に歩み続けます、前に進み続けます。なぜならば私たちはまだ完全ではないからです。確かに、私たちは信仰が与えられて、変えられました。教会の交わりが与えられました。しかし、完全ではないのです。

ボディビルダーがその肉体の完成を目指して、鍛え続けるのと同じように、クリスチャンである私たちは、信仰の完成を目指して、歩み続けるのです。「人はその友によって研がれる」と言われていますが、私たちは信仰の友によって、そして教会の交わりの中で、何よりもイエス様によって研がれ続け、磨かれ続けるのです。

「私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。」まだまだこれからだということです。

信仰者としての歩みが続いていくのです。その信仰の歩みを私たちは共に歩いていくのです。そして、その信仰の旅路は自分の力で生きていくものではありません。

神の武具を身につけて、この世の様々な誘惑に打ち勝ちながら、目指すべき目標に向かって進んでいくのです。

エペソ 6章 10-12 節。

「終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

私たちの歩みにおいて、クリスチャンが直面する、霊的な戦いがあることが教えられています。霊的な戦いにおいて勝利するために、また信仰の歩みを続けるためには、人間の力ではなく、神の力が必要なのです。この世で生きる信仰者に対する誘惑や悪は現実存在します。

そして、悪の存在は神の働きを妨害するだけでなく、私たちにとっても脅威なのです。

I ヨハネ 5 章 19 節

「私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。」

そのような、悪の策略に対抗するために必要なのは、神の武具です。

ローマ 13 章 12,14 節

「夜は深まり、昼は近づいて来ました。ですから私たちは、闇のわざを脱ぎ捨て、光の武具を身に着けようではありませんか。」

「主イエス・キリストを着なさい。」

私たちは、信仰の友である主イエス・キリストのうちにとどまり、世のすべてを治めておられる方の力を身につけなければならないのです。

信仰が与えられると、この世、地上は、激しい霊的な戦いの現場であることが見えるようになります。クリスチャンが戦う相手は「血肉」、つまり目に見える人間ではありません。目に見えない暗闇の力、悪魔や悪霊ども、目に見えない敵がいるのです。

そして、その敵には人間の力や知恵、意思や努力では打ち勝つことができません。しかし、恐れる必要はありません。

エペソ 1 章 19-20 節

「また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。この大能の力を神はキリストのうちに働かせて……」

信仰によって私たちは神の力により頼むことができます。自分の力に頼ることなく、主の大能の力、偉大な力によって強くされるのです。

エペソ 2 章 5 節。

「背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。」

この世のすべての人間が悪の支配下に生きていますが、その中から私たちはイエス・キリストによって救われているのです。しかし、救われた私たちは、まだ罪の誘惑の中に置かれており、戦い続けなければならないのです。

ですから、信仰の友が必要であり、共に神の力によって、信仰の旅路を歩み続けるのです。私たちが求めるべき神の力、神の武具とはどのようなものでしょうか。

エペソ 6 章 14-17 節

「腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい。これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。」

それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。」

私たちに救いが与えられ、信仰の友が与えられ、神の武具が与えられていることに感謝しつつ、共に歩み続けたいと思います。

何が良くて何が悪いか、どの道を進むべきか共に祈りつつ、偽りの真理を求めることがないように主イエス様に導かれていきましょう。私たちはたとえ恐れ、苦しみ、落胆に支配されるようなことがあったとしても、神の武具によって、目には見えない信仰の戦いに勝利することができるのです。

ヨハネの福音書 14 章 6 節

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

私たちが信仰を持って進むべき道が示されています。主イエス様が導かれる道です。そして、そのゴールは天の御国です。なぜならば、私たちの国籍は天にあり、天においてキリストの栄光に輝くからだと同じ姿に変えられるからです。

ピリピ 3 章 20-21 節

「しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。」

キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。」

教会に導かれる前の私は、救い主イエス・キリストが、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださるということを知りませんでした。

自分勝手に、自分の力によって、自分の思う、なりたいからだを求めていました。その体を求めて、スポーツジムに通っていました。しかし、スポーツジムに来てくださったイエス様が私を変えてくださいました。

イエス様が与えてくださる、「栄光に輝くからだ」があるならば、筋トレバカを辞めて、これからは、朽ちるからだよりも、イエス様が与えてくださる、「栄光に輝くからだ」を求めようと、生き方が変わりました。

そして私は、ひとりで生きるのではなく、イエス様が友となってくださり、教会の交わりが与えられ、共に信仰を持って歩み続ける友が与えられました。

信仰の友との交わりを通して、自分は高慢であったことを教えられ、謙遜になることを学びました。自分の力によって生きるのではなく、共に祈り合い、そして神の武具によって力づけられて生きることを知りました。

謙遜とは、自分の弱さを受け入れ、他者にも愛をもって接することです。自分の力を誇ろうとする生き方ではなく、へりくだって互いに愛し合い、助け合って生きることです。

私はこれまでの歩みを通して、人は鉄によって研がれるのではないこと、鉄によって鍛えられ磨かれるのではなく、人によって、教会の交わりにおいて、主にあって、研がれ、鍛えられ、磨かれ、栄光に輝くからだになっていくのだということを教えられました。その与えられる「栄光に輝くからだ」を何よりも求めるようになりました。

昔の私は、筋トレは男の義務教育だと思っていました。しかし今は、教会の交わりが義務教育だと思っています。二人でも三人でも集まる場所にはイエス様がおられる（マタイ 18 章 20 節）と言われます。共に集まる信仰の友と、イエス様によって、これからも研がれ続け、「栄光に輝くからだ」を目指したいと思います。

トレーナーであり、コーチであり、友であるイエス様と共に、私たちは共に、切磋琢磨して、ゴールを目指して、一步一步前に進んでいきましょう。

箴言 27 章 17 節

「鉄は鉄によって研がれ、人はその友によって研がれる。」